

被追突事故防止のポイント

1. 追突しやすい車、されやすい車

車種別の追突事故件数をみると、大型貨物車は追突される側より、追突する側の方が 3.7 倍も多く、普通乗用車は追突される側、する側がほぼ同じであり、軽乗用車は逆に追突される側の方が 1.7 倍も多くなっています。このことから、大きな車ほど追突しやすく、小さな車ほど追突されやすい傾向にあるといえます。

2. 追突されないポイント

- ① 乗用車はトラックの間に入らない……乗用車がトラックとトラックの間に入ると、後ろのトラックに追突されやすい。トラックに挟まれたらすぐに脱出すること。
- ② 渋滞の最後尾につく時はハザードランプを点滅する……高速道路では、渋滞の最後尾に追突する事故が多発するので、自分の車が末尾につく時はハザードランプを点滅させて後続車に注意を促す。
- ③ 駐停車する時は他車からよく見える場所に置く……駐停車時に追突される事故も多いので、車を止める時は曲がり角やカーブの途中での駐停車は絶対に避け、他車からよく見える場所を選ぶ。また、駐停車中はハザードランプ等で目立たせること。
- ④ 急ブレーキをかけない……後続車が接近している場合には特に注意をし、ブレーキを 2 回に分けて踏み、後続車に知らせるようにする。
- ⑤ 後方は直接確認する……車線を変更する場合の後方確認はバックミラーだけに頼らず、斜め後方の死角については直接確認する。
- ⑥ 早めにウィンカーを出す……右左折するような場合には、直前でウィンカーを出すようなことをせず、早めに合図をする。
- ⑦ 追越させる……後続車が異常に接近してくる時には追越しをしたがっていることが多い。追越しに適した地点でスピードを落として左側に寄り、追越しさせる。

★ 指導のポイント

追突されるとすれば、後方の車間距離を十分とらないからにほかなりません。車間距離は前だけ注意するのではなく、後方にも注意するよう指導しましょう。また、急ブレーキを踏んだり、右左折する時、後続車に前もって十分な予告をしないで追突された事故は、予防できた事故として認識させる必要があります。